



TITLE:

會報

AUTHOR(S):

CITATION:

會報. 天界 1933, 13(150): 411-412

ISSUE DATE:

1933-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165419>

RIGHT:

會 報

九月例會講演會記—— 去る九月十日午後三時より満員の盛況裡に開會，最近に歸朝された山本博士を迎えて「北米旅行談」を聴く。當日花山天文臺の講演室は圍壁に數多のアメリカ大都市の市街圖が張られ，加ふるに各地の名勝風光繪葉書が多數掲出されて，珍しくもアメリカ郷土地理展覽室と變り，先づ來聽者の眼を楽しませる。やがて講演が始まると，カナダの莽クトリヤ，ブランク・ヴー兩市に於ける太平洋學術會議の動靜，ロッキーマン山中車窓風景，シカゴに於ける驚異的プラネタリムの觀覽，萬國博覽會の盛況，アメリカ科學協會總會，移つてボストン，ニューヨーク，ワシントン，ピッツバーグ，シンシナチ各市への歴訪，道中各天文臺の訪問，そして十年前往訪當時の追想，更にシカゴに歸つて，折しも伊太利バルボ大飛行艇隊歡迎の有様，或は又，アメリカ西部の彗星發見者の長田政二氏と相携へて，キルソン山天文臺訪問談，大「二百吋」反射機設計模様の瞥見，等，等，等，述べ來たり，説き來たる處一つとして興味盡くるはなく，二時間半餘の長時に涉つて一同物珍しい最新のアメリカ事情の實際見聞談に聽入り，暫しは茫然自失の有様であつた。

或る坊ちゃんの答

當年十歳の坊ちゃん，去九月の例會に，父(神戸の一會員)に連れられて花山へ來た其の翌日，學校で受持の先生に尋ねられ，下の如き答へをされました。

『天文學者の御話を聞きました』

『それは面白かつたらう。分つたか』

『分りませんでした……』

『アメリカ人の子供が，日本人は皆軍人ばかりだと，思つて居たと云ふ御話がありました』

岡山支部主催第五回天文學講習會報告

水 野 千 里

當支部主催第一回講習會は、去大正十年十二月に「實際天文學」講師は山本博士、第二回火星、第三回天文學、第四回太陽、何れも講師は同様、今回は會員工學士坂本鑒四郎氏が「望遠鏡製作法」、水野幹事が「小學校教科書に現れたる天文教材解説」に就いて述べた。

第一日(八月二十三日) 坂本氏反射望遠鏡製作法について、學理と自己の経験によつて、明快に解き來り、説き去られた。水野幹事は太陽系について、國語讀本中の太陽、曆の話に主力を注いだ。午後三時記念撮影後、支部で茶話會を催し、自己紹介後、倉敷天文臺參觀に出掛けた。

第二日(八月二十四日) 坂本氏は前日に引續き講話、屈折望遠鏡製作法の要點を簡明に述べられた。水野幹事は、恒星の種類、星の光度、星の話の解説を試み、午後三時から支部で、天文圖書、繪葉書等の陳列を參觀、午後五時から、佐々岡で有志懇親會を開いた。

第三日(八月二十五日) 水野幹事は、星座や星の名、天球、天文臺等に説き及ぼし、結論として、天文と人生とを述べ、正午講習證書を十六名に授與して閉會した。

○天 界 研 究 會

八月十二日(第二土曜日)岡山支部にて開催、水野幹事天文行脚についてこの雑談をなし、行脚中に蒐集した繪葉書が陳列された。天文行脚は、神戸から臺中丸で、沖繩縣に渡り、各地で講話、首里丸で鹿兒島に上陸、鹿兒島宮崎、大分、熊本、福岡、山口の諸縣に及んだものであつた。

次號の主なる内容の豫告

坂本工學士、ピッチの調合と平面鏡の作り方。

柴田理學士、去る七月21日の大火球の調査報告

山本一清博士、北米旅行記(2)

附録：「天界」第12卷總目錄及び索引。